

令和五年度
名寄市立大学
一般選抜 前期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は静かに手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

失敗に対して、どんな姿勢で臨むかは、ひとそれぞれです。

なかには「どんな失敗も絶対にしたくない！」と慎重になり過ぎて、自分からは何一つアクションを起こさないひともあるでしょう。そんなひとは、確かに失敗を避けられる可能性を高めることはできるかもしれませんが、その代わり、本当はやりたいと思っていることもできませんし、毎日、時間ばかりが虚しく過ぎて、新たな出会いも、達成感も、自身の成長も、何も得ることはできません。

反対に「失敗なんて全然怖くない！」と大胆になりすぎて、猪突猛進ちよとつしてしまうひともいるでしょう。そんなひとが危険もかえりみずに無茶ばかりしていたら、まわりのひとも巻き込まれ、迷惑をこうむるようになります。そのひとはどんなに失敗しても反省することがないので、いくら失敗しても成長できません。そればかりか、失敗から得た知識や経験を活かせないので、失敗を重ねるうちに、失敗のスケールがだんだんと大きくなり、深刻さも増していき、やがては、命に関わるような取り返しのない失敗を起こしてしまう可能性が高くなってしまいます。

失敗は、怖がり過ぎてもダメ、怖がらなさ過ぎてもダメ。

大切なのは、失敗と上手に付き合う方法を見つけることです。

(中略)

では、失敗と上手に付き合うためには、どうすればいいのでしょうか。

(中略)

世の中の失敗は二つのタイプに分かれると私は考えます。

「許される失敗」と「許されない失敗」です。

もっと簡単に言うなら「よい失敗」と「悪い失敗」です。

まずは「よい失敗」について説明します。

「よい失敗」とは「個人が未知なるものに遭遇して起きた失敗」です。個人が無知であったり、あるいは、何かミスして起きるタイプの失敗です。この手の失敗をしたひとは、なんらかの批判やペナルティを受けることになりません。その失敗で、ある程度、まわりのひとに迷惑をかけてしまったのであれば、叱られるくらいは仕方ないかもしれません。しかし、あまり責め立てたりするのは避けるべきです。

なぜなら、その「未知なるものとの遭遇による失敗」は、そのひとが成長する過程において、必ず通過しなければならぬものだからです。

失敗なしに人間は成長しません。ひとは失敗して成長し、また小さな失敗を体験して、その分、成長していくというくり返しのなかで、一つひとつの失敗経験から体験的知識を得ることで、次の大きな失敗を起こさないために、徐々に軌道修正していくからです。さらには、その失敗経験を将来の成功へと転化することもあるからです。

(中略)

では、「悪い失敗」とはどのようなものでしょうか。

極端に言えば「よい失敗」に含まれないすべての失敗」が「悪い失敗」と言えます。具体的には「単なる不注意や判断ミスで起こり、そこからは何も学ぶことができず、何度もくり返されてしまうような失敗」です。たとえば他人には迷惑をかけないものであったとしても「悪い失敗」です。失敗したひとつにとって意味がなく、反省もされないもので、習慣的にくり返され、やがて大きな失敗につながるリスクがあるからです。

逆に、失敗したひとつにとって意味があり、成長を促すきっかけになったとしても、周囲の人間に悪影響を及ぼすような失敗は「悪い失敗」です。

一人の人間が成長するために他人が甚大なダメージを受けてもいいはずがありません。その失敗によって得られるメリットとデメリットを比べたとき、圧倒的にデメリットの方が多ければ「悪い失敗」なのです。

失敗から体験知識を得ようとすれば、一つひとつの失敗が取り返しのつかないほど大きな失敗につながらないよう気をつけながら、ダメージをリカバーできる程度の「よい失敗」の経験を積み重ねていく必要があります。

もし、それが「悪い失敗」であれば、いくら経験しても、個人として成長することはできません。

ただし、そこには一つ、課題があります。仕事や日常の生活で起きている小さきままな失敗のなかでも、経験したときにそこから体験的知識を得られるような「よい失敗」は、決して多くないということです。

ただ、この課題を解決する方法はあります。自分自身の「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも体験的知識を得られるようになればいいのです。

そのためには、「自分自身が「よい失敗」をした」という数少ないチャンスが到来したとき、その貴重な経験から体験的知識を得るために有効な取り組みを実践することで、失敗の本質を理解して、より確実に「よい失敗」から体験的知識を身につけていく経験の積み重ねが必要になります。

そのような経験を積み重ねていけば、自分が起こした「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも効率的に体験的知識を学びとれるようになります。

結果、たとえ自分自身で「よい失敗」を経験する機会が少なくても、資料として記録されている他人の典型的な「よい失敗」の原因を分析することで、そこから体験的知識を学び、自身の成長につながられるようになるのです。

『やらかした時にどうするか』畑村洋太郎著 ちくまプリマー新書 二〇二二年より)

問 失敗と上手に付き合うことについて、あなたの考えを八〇〇字以上一〇〇〇字以内で述べなさい。